平成25年10月9日

# 中之島図書館の有効活用について

大阪府立中之島図書館あり方検討TF報告

# はじめに

- 大阪府立中之島図書館が住友家から建物及び金品・書籍の寄贈を受け、府内初の公共図書館として明治37年（1904）に設置されて以来110年が経過する。この間、府内の図書館は着実に整備が進み、現在、府内の公共図書館数は、延べ床面積が国内屈指の3万㎡を超える図書館2館を含め、140館を超えるまでになっている。

- また、図書館が位置する中之島地域は、平成27年度に整備着手予定の新美術館をはじめ、既存の美術館や国際会議場などの施設群と親水・みどり環境の整備を通じてミュージアムアイランド構想を推し進めていくと位置付けられている。

- このような情勢の中にあって、中之島図書館が従前どおりの図書館サービスを続けていくだけでいいのか、国の重要文化財である建物や所蔵する歴史的な貴重書を有効活用した事業を行うべきではないか、あるいは集客施設に改めるべき、などの意見が府市の関係者から発せられるところとなってきた。

- 本検討会報告は、このような状況の変化や意見を踏まえ、大阪府教育委員会として中之島図書館の今後のあり方を上山特別顧問をはじめ外部の有識者の意見もお聞きしながらまとめたものである。中之島図書館は現在、国指定の重要文化財である本館及び左右両翼棟を将来にわたって保存し活用できるよう平成26年12月末の竣工を目途に耐震補強工事を行っているが、この工事終了後のリニューアル時における中之島図書館の姿を、この報告によってお示しするものである。

# 目　　次


１中之島図書館の現況
（1）概況
（2）中之島図書館の歴史
（3）中之島図書館が現在実施している図書館サービス
（4）入館者数と蔵書構成の推移
（5）建物の概要
（6）図書館としての位置づけ
▽　中之島図書館と府立中央図書館との相違
▽　主要都道府県立（市立）図書館との比較（1）
▽　主要都道府県立（市立）図書館との対比（2）
複数配置県の状況
（7）図書館運営上の諸課題

２大阪市内における中之島図書館の役割
（1）　大阪市域における図書館整備の経緯
（2）　大阪市域内の図書館の立地
（3）　大阪市域内の図書館サービスの状況
（4）　府立図書館と市立図書館の役割と機能の相違

３中之島図書館に対する評価
（1）　府民の利用状況と一般的評価
（2）　来館者の利用目的と満足度
（3）　ビジネス支援サービスに対する評価
▽　全国有数のビジネス調査資料へのアクセス数
▽　ビジネス支援サービスを体験したモニターの意見
（4）　古典籍に対する評価
▽　蔵書の1/3を占める20万冊の古典籍
▽　代表的な所蔵品
▽　各方面で利活用される古典籍
（5）　近代大阪を代表する文化遺産
（6）　立地特性とブランド力
（7）　結び

４有効活用の方策
○　他用途への転用－美術館・博物館等
○　図書館を継続
▽　特別区の図書館化
▽　貸出機能の廃止
▽　ビジネス支援サービスの継続
▽　古典籍の展示に特化した図書館ミュージアム

５検討の方向性
６具体的な改革案

# １　中之島図書館の現況

# （1）中之島図書館の概況

○　建物は現役の公共図書館として我が国最古（開館：明治37年（１９０４））。
○　本館及び左右両翼棟は国指定の重要文化財（昭和49年（1974）指定）。
○　大阪資料・古典籍とビジネス支援に特化したサービスを提供。

場所：大阪市北区中之島1丁目2－10

立地：中之島公園内

規模：敷地面積：4,442㎡、延床面積：6,897㎡

（うち閲覧室：1,158㎡、書庫面積：2,119㎡）

年間来館者数：291,193人（開館日数：285日）

蔵書冊数：　563,912冊（うち、貴重書約9千冊）

評価額：　2,022百万円（貸借対照表計上額）

寄託図書：4,917点

行政コスト（平成２４年度）

行政費用　：　３２６百万円
資料購入費：　２４百万円
給与関係費：　１８７百万円
その他管理費等：１１５百万円

行政収入：　７百万円
国庫支出金：４百万円
使用料：　３百万円

職員数：２３人（うち、司書１４人）

その他
本館及び左右両翼棟については、住友家が設計・施行後、大阪府に寄附。
開館時に住友家が図書購入費（10年間分）を寄附。
大阪府は、議会の議決を得て、負担付贈与契約を締結。

# （2）中之島図書館の歴史

| 年　代 | 事　　項 | 区分 | 概　　要 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 蔵書冊数 | 主な刊行物 | 主な特別展 | 職員数・構成<br>※司書数の推移 |
| 1904年（M37） | 3月1日、「大阪図書館」として開館（住友家からの寄贈） | 戦前 | 1904年<br>37,321冊 | | | |
| 1910年（M43） | 近世後期小説類937冊の寄贈を受ける | | | 論語善本書影<br>近畿善本図録<br>正平版論語集解<br>国際特許発明<br>郷土先儒著聚英<br>時局資料百選 | 図書展覧会（2回）<br>稀覯図書陳列(8回)<br>豊臣秀吉公関係資料展<br>人魚洞文庫絵本展<br>航空発明文献展<br>等<br>(56回開催) | |
| 1914年（T3） | 蔵書10万冊を超える（開館時の3倍。うち3割が寄贈図書） | | | | | |
| 1915年（T4） | 佐藤六石収集の朝鮮本を住友家の寄付金で購入≪韓本雑書≫ | | | | | |
| 1916年（T5） | 第2号書庫を増築 | | | | | |
| 1920年（T9） | 年間入館者が20万人を突破（開館時の2倍） | | | | | |
| 1921年（T10） | 鴻池善右衛門氏から同家旧蔵書の寄贈を受ける | | | | | |
| 1922年（T11） | 住友家の寄附により左右両翼棟を増築 | | 1924年<br>186,055冊 | | | |
| | 円珠庵から契沖遺書（国指定重要文化財）の寄託を受ける | | | | | |
| 1923年（T12） | 住友家から自然科学系洋書2万冊の寄贈受ける≪住友文庫≫ | | | | | |
| 1927年（S2） | 第3号書庫を増築 | | 1944年<br>346,377冊 | | | |
| 1935年（S10） | 特許部を新設。日英に加え、米独仏の特許資料を継続入手し提供。 | | | | | |
| 1945年（S20） | 空襲により延べ28日休館したが、8月24日から再開 | 戦後1<br>総合図書館時代 | 1974年<br>595,346冊<br>1995年<br>1,016,522冊 | 近松浄瑠璃本奥書集成<br>奥田家文書<br>大阪本屋仲間記録<br>大阪府史 | 創立50周年記念展<br>西鶴本展<br>大塩平八郎資料展<br>韓国古印刷文化展<br>中之島図書館所蔵絵画展<br>追悼藤沢桓夫資料展<br>等<br>(72回開催) | 1974年：57人<br>（司書部長、3課長含む）<br>1996年：29人<br>（司書部長、3課長含む）<br>2010年：15人<br>（司書部長、2課長、再任用含む） |
| 1951年（S26） | 大阪府立図書館条例公布。閲覧料無料化 | | | | | |
| | 石崎勝蔵氏旧蔵和漢書を購入≪石崎文庫≫ | | | | | |
| 1956年（S31） | 商工資料館を増築（講堂と商工資料室を開設） | | | | | |
| 1960年（S35） | 事務棟を増築（貴重書庫を設置） | | | | | |
| 1968年（S43） | 朝日新聞社から和漢書の寄贈を受ける≪朝日新聞文庫≫ | | | | | |
| 1974年（S49） | 大阪府立中之島図書館と改称（夕陽丘図書館開館）<br>本館及び左右両翼棟が国の重要文化財に指定される | | | | | |
| 1977年（S52） | 織田作之助旧蔵書等の寄贈を受ける≪織田文庫≫ | | | | | |
| 1996年（H8） | 大阪資料・近世和漢書資料を中心にリニューアル（中央図書館開館） | 戦後2<br>専門図書館へ | 1996年<br>538,217冊 | 中之島百年<br>大阪百人一首 | 百周年記念展<br>大阪の都市遺産と住友展<br>等<br>(大展示40回開催) | |
| 2004年（H16） | 百周年記念式典。ビジネス支援サービス開始 | | | | | |
| 2010年（H22） | 市場化テストにる窓口業務等の民間委託化 | | | | | |

# (3)中之島図書館が現在実施している主な図書館サービス

**＜大阪資料・古典籍サービス＞**

● 歴史、文化、芸能、文学など、大阪に関係するあらゆる分野の資料を収集・提供。

● 「大阪文献データベース」等を作成し、調査に役立つ情報を提供。

◆ 古典籍（明治初年までに書写・印刷された資料）20万冊を保存・提供。

◆ デジタル化を進め、その一部は「貴重書画像データベース」「錦絵にみる大阪の風景」等、HPで閲覧に供する。

◆ 展示と講演で古典籍に親しむ機会を提供。

◆ 出版・放映・展覧会への出品で、研究の促進や文化の発信を援助。

**＜ビジネス支援サービス＞**

● 各種調査（市場、取引先、地歴等）に役立つ資料・データベースを収集・提供。

● 起業・開業、就職・転職活動、資格取得を支援する資料の収集・提供。

● ビジネスセミナー、活用講座、展示等のイベントで資料の活用を援助。

● インターネット環境の提供。

□ 主な資料・・・マーケットレポート、業界・政府統計、企業名鑑 ・業界新聞（460紙）、ビジネス雑誌（600誌）、CSR、社史、有価証券報告書、資格図書等。

□ データベース・・・5大紙の新聞記事、eol（有価証券報告書）、企業情報、法令・判例情報等。

**＜その他＞**

○ 中央図書館の図書・資料の取次：平成24年度実績：102,702冊。

○ 国立国会図書館・大学図書館からの資料の取り寄せ、複写依頼、紹介状の発行。

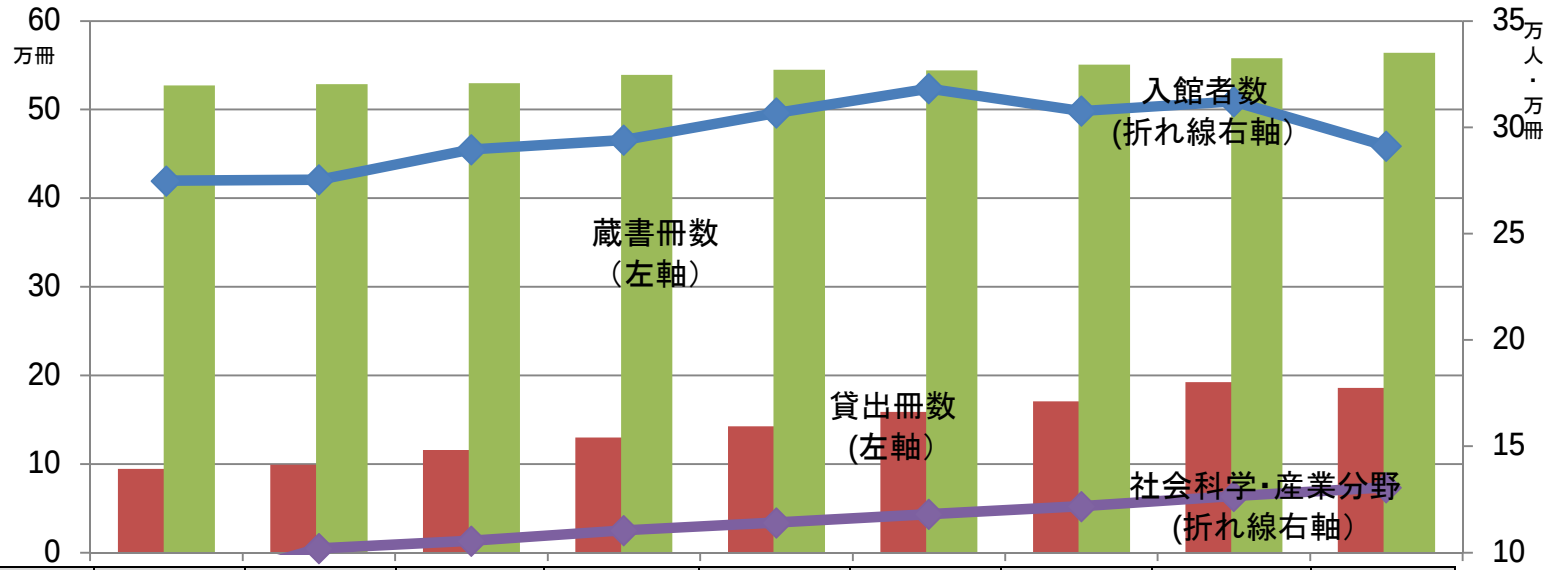
○ 市町村への支援：協力貸出、研修等。

# （4）入館者数、貸出冊数と蔵書構成の推移

○　平成16年度のビジネス支援サービス開始以降、社会科学系、産業系の図書資料を積極的に収集。蔵書に占める割合が漸増してきている。

○　入館者数、貸出冊数は社会科学系、産業系の蔵書の伸びに呼応する形で増加。平成21年度以降は横ばい（H24は耐震補強工事に伴う臨時休館の影響で減少）。

**入館者数・貸出冊数・蔵書冊数（うち社会科学系）の推移**



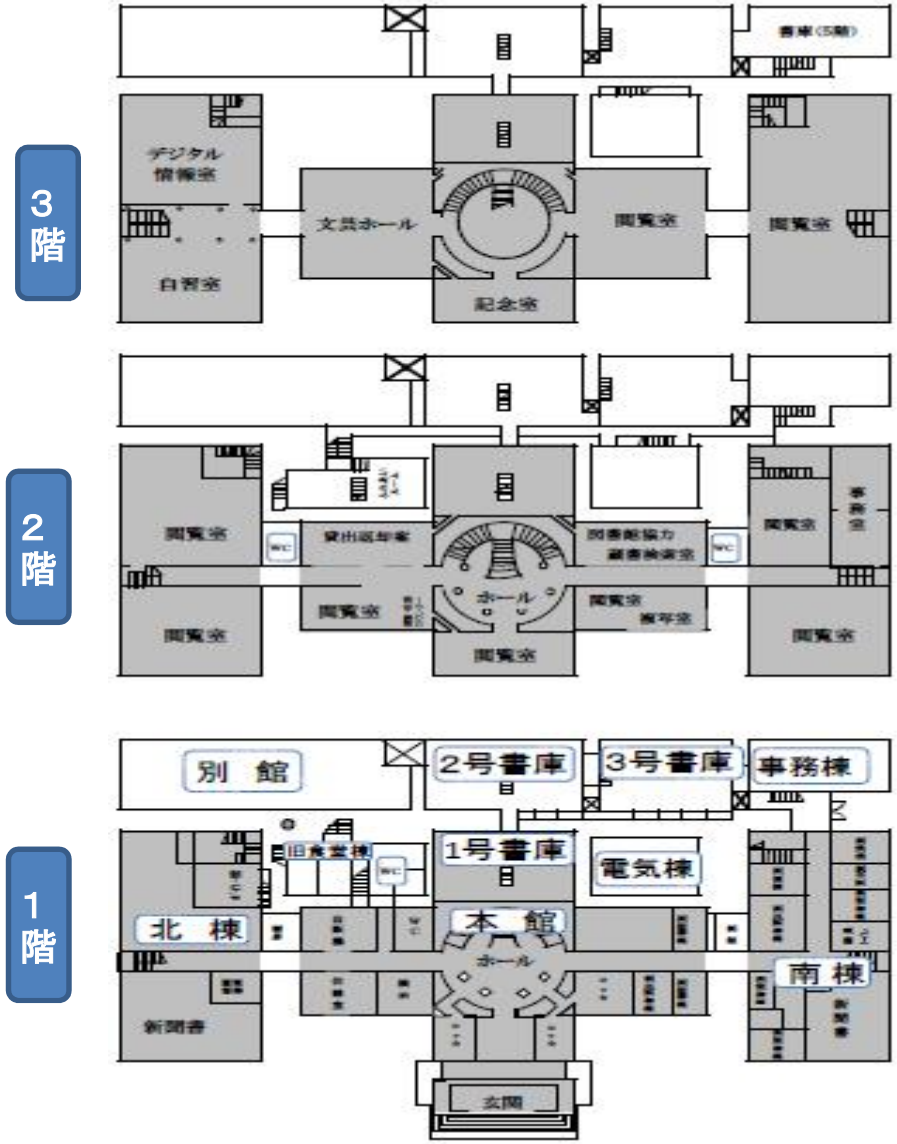

| 年　　度 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数(千人) | 275 | 275 | 290 | 294 | 307 | 318 | 308 | 312 | 291 |
| 貸出冊数(千冊) | 94 | 99 | 116 | 130 | 143 | 159 | 171 | 192 | 186 |
| 蔵書冊数(千冊)　A | 527 | 529 | 530 | 539 | 545 | 544 | 551 | 558 | 564 |
| 社会産業分野(千冊)B | 81 | 102 | 105 | 110 | 114 | 118 | 122 | 127 | 131 |
| 蔵書割合　B/A | 15.4% | 19.3% | 19.9% | 20.5% | 20.9% | 21.7% | 22.1% | 22.7% | 23.2% |

# （5）建物の概要

建物・敷地の概要
〇敷　　地：4442.97㎡（大阪市有地を無償借入）
〇建　　物：煉瓦及び石造、一部鉄筋コンクリート
〇建築面積：2071.99㎡
〇延床面積：6897.51㎡

主要建築物の概要

| 名称 | 竣工年次 | 構造 | 延床面積 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 本館 | 1904年 | 煉瓦及び石造り3階 | 1,821㎡ | 住友家で設計・施工し、竣工後、府に寄贈<br>≪重要文化財≫ |
| 1号書庫 | 1904年 | 煉瓦及び石造り5階 | 446㎡ | |
| 北棟・南棟 | 1922年 | 煉瓦及び石造り3階 | 2,031㎡ | |
| 2号書庫 | 1916年 | 煉瓦積み5階建 | 623㎡ | |
| 3号書庫 | 1927年 | RC造り5階 | 624㎡ | |
| 別館 | 1956年 | RC造り4階 | 729㎡ | |
| 事務棟 | 1960年 | RC造り5階 | 606㎡ | 一部に住友グループからの寄附を充当 |




網掛け：国指定（昭和49年）の重要文化財部分

# （6）図書館としての位置付け

## ①府立中之島図書館と府立中央図書館の相違

○　中之島図書館は大阪府立中央図書館の開館（平成8年）に伴い、蔵書の約半数を中央図書館に移管。その後、保有する資料の特色や地域的な図書館ニーズを踏まえ大阪資料・古典籍とビジネス支援に特化した専門図書館に発展。

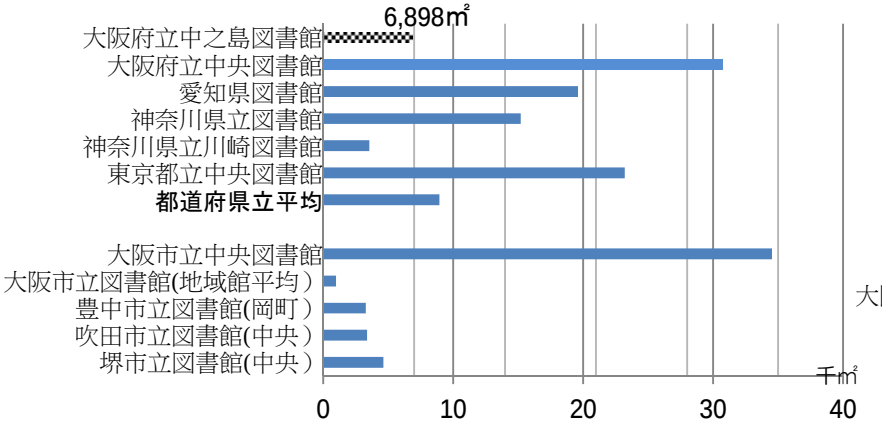
○　府立中央図書館は、300万冊を超える収蔵能力を活かした総合的な府の中核図書館として、資料保存機能と市町村図書館に対するバックアップ機能を担う。

| | | 大阪府立中央図書館 | 中之島図書館 | 【参考】大阪市立中央図書館 |
|---|---|---|---|---|
| 概要 | 主要な役割 | 資料の保存（デポジット）機能を有し、あらゆる分野の資料を収集提供する総合的な図書館 | 「ビジネス」と「大阪・古典籍」に関する資料を重点的に収集・保存する専門的な図書館 | 市民への直接サービスの提供する総合図書館。各区にある地域図書館のセンター機能も果たす。 |
| | 開館年月日 | 1996年（H8）5月10日 | 1904年（M37）年3月1日 | 1996年（H8）7月2日 |
| | 敷地面積 | 18,500㎡ | 4,442㎡ | |
| | 延床面積 | 30,770㎡ | 6,897㎡ | 34，533㎡ |
| | 建物の構造等 | 地上4階、地下2階<br>（鉄骨鉄筋コンクリート） | 地上3階、一部5階<br>（煉瓦・石造、一部鉄筋コンクリート） | 地上6階、地下6階<br>（鉄骨鉄筋コンクリート） |
| | 開館日・時間 | 火～金：9:00～19:00<br>（こども資料室・児童文学館は17:00）<br>土・日・祝・休：9:00～17:00 | 月～金：9:00～20:00<br>土：9:00～17:00 | 月～金：9:15～20:30<br>（第1・第3木は休館）<br>土・日・祝・休：9:15～17:00 |
| 24年度実績 | 蔵書冊数 | 約192万冊及び児童文学館約70万点 | 約56万冊 | 約198万冊 |
| | 入館者数 | 602，060人 | 291，193人 | 1，667，114人 |
| | 個人貸出冊数 | 884，492冊 | 185，940冊 | 2，635，115冊 |
| | 協力貸出冊数 | 71，819冊 | 3，932冊 | 14，877冊 |
| | 調査相談件数 | 78，315件 | 67，228件 | 213，940件 |
| | 複写枚数 | 375，861枚 | 380，617枚 | 479，893枚 |
| 特　　徴 | | 利用者に占める職業人の割合：37.1%<br>仕事上の調べものでの来館者：8.3% | 利用者に占める職業人の割合61.7%<br>仕事上の調べものでの来館者：22.6% | 仕事上の調べものでの来館者：4.5% |

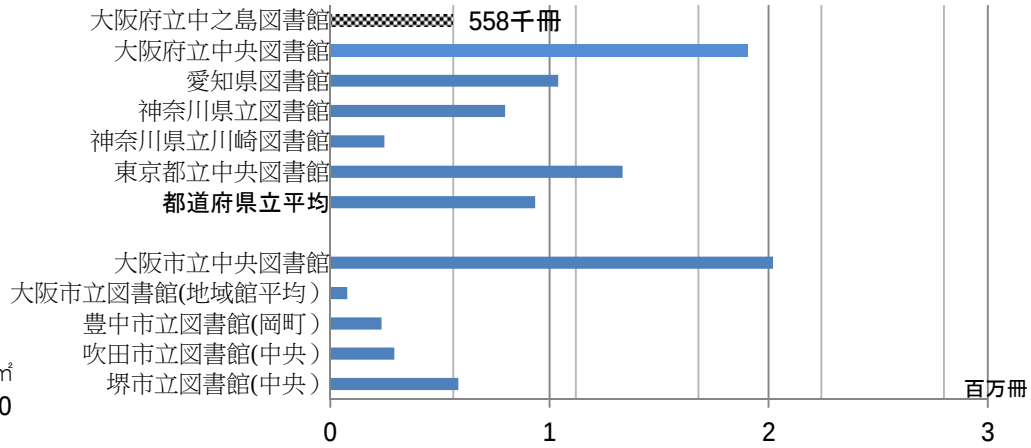
# (6)②主要都道府県立(市立)図書館との比較　ア

○　中之島図書館の規模は、床面積では都道府県立図書館の平均並み、蔵書数では小規模の部類。
○　年間利用者数、専任職員数は都道府県立図書館の平均並み(データはいずれも平成23年度)

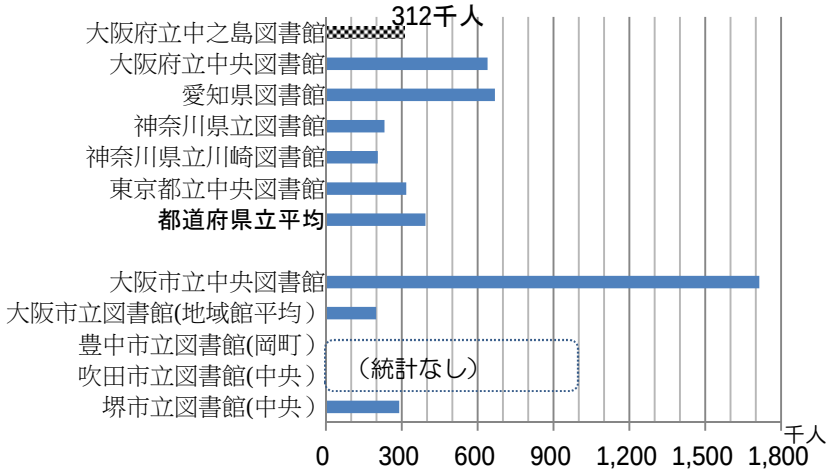
**専有延床面積**



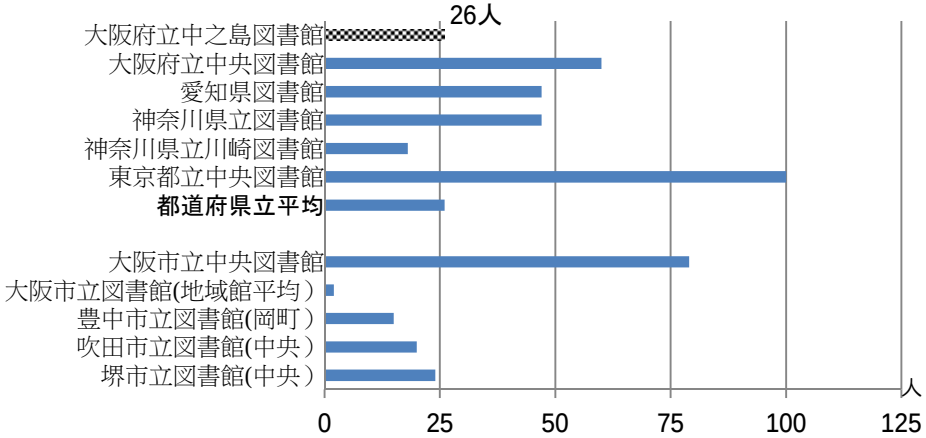

**蔵書冊数計**




**年間来館者数**




**専任職員数**

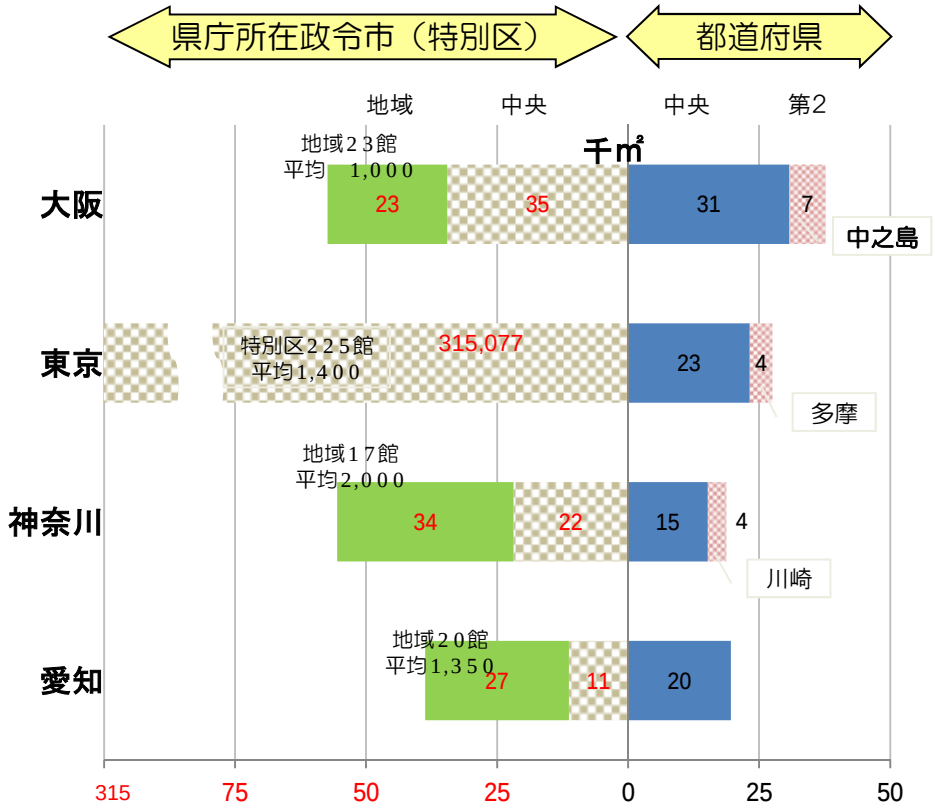


# （6）②主要都道府県立(市立）図書館との比較　イ

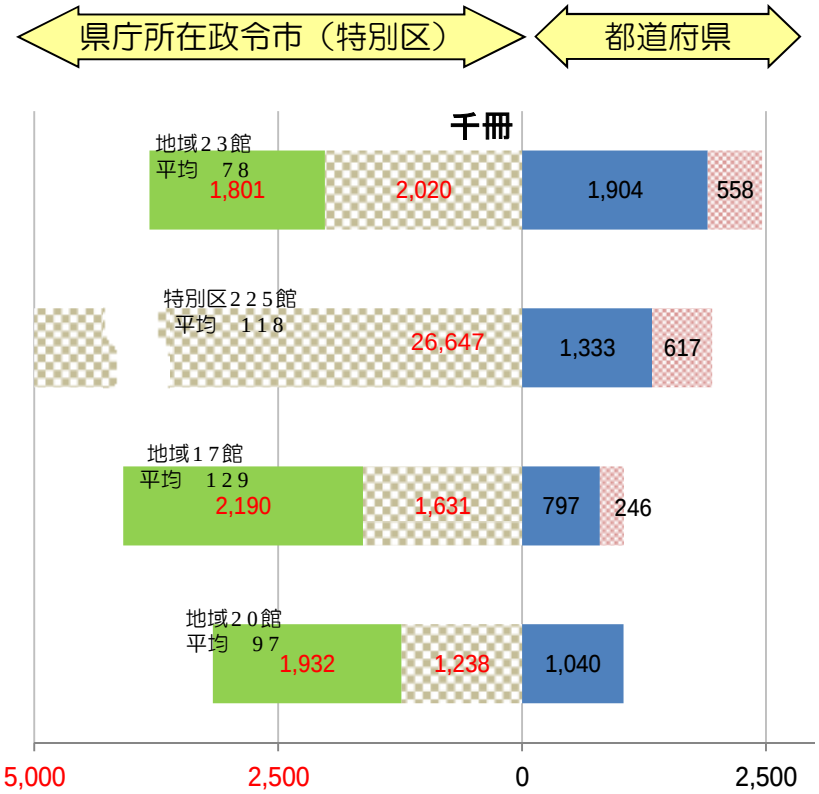
【複数配置県の状況】

○　府県立の第2図書館として中之島は、面積は比較的大きいが、蔵書数は平均的な規模。
○　大阪市立図書館は、政令市の中では、中央図書館が巨大である反面、地域館は狭小。
　(床面積、蔵書冊数とも）。
○　特別区の図書館設置状況（一人当たり）は別格（館数、床面積、蔵書冊数とも）。
　（人口比〈特別区：大阪市〉=〈3.5：1〉　⇒　図書館床面積=〈6：1〉、蔵書=〈7：1〉、館数=<9：1>）

＜延床面積＞




＜蔵書冊数＞



# （7）図書館運営上の諸課題

**【建物の管理面】**

○　必要な経費が十分投資されなかったため、重要文化財の建物は煤けたままで、内装もペンキがはげ落ち、設備も老朽化。

○　重要文化財という制約があるものの、エレベーターもなく、障がい者や高齢者には使い勝手が悪い施設。

○　調査型・課題解決型図書館を標榜しながら、食堂など、長時間滞在に必要な設備が欠如。

**【事業の内容面】**

○　古典籍に係る電子目録が未整備で、情報発信力が弱く、デジタル化も遅れている。資料の保存環境も不十分。

○　ビジネス支援事業は10年目を迎えるが、周知が未だ不十分。また、事業の対象をしぼり込めていないために広く浅いサービスに留まっている。

**【対人サービス面】**

○　入館時の持ち物預けや受付制度が残ったままなど、旧態依然たる入退館方式を継続している（おもてなし意識の欠如）。

**【職員の意識面】**

○　蔵書の厚みや経験を積んだ相談業務など、「“高い“と自負するサービスを提供しているだけでいい」、「それは図書館の役目ではない」という、思い込みがなかったか。 上から目線で、府民と接していなかったか。

# ２　大阪市内における
# 中之島図書館の役割

# （1） 大阪市域における図書館整備の経過

Ⅰ　1904年（M37）に府内初の公共図書館として現府立中之島図書館が設置される。
　その後、1921年（T10）に大阪市立の図書館4館が設置されるまで市内で唯一の公共図書館だった。

*市立図書館の整備経過（概略）*

*1　1921年、4行政区に1館づつ新設*
*（北区は西野田に。蔵書数計14千冊（府立は186千冊））。*
*2　1926年（S元）に6館になるも、戦時体制のもと他の施設に転用され1館に。戦災で消失。*
*3　1946年（S21）、小学校の空き教室で蔵書2万冊から再スタート。*
*4　1961年（S36）、中央図書館新設（大阪市西区北堀江）。*
*（延べ床面積7千㎡。蔵書数　5万冊、入館者数は312千人（S37）。*
*当時、府立図書館は蔵書数43万冊、入館者数は478千人）*
*5　各区に1館を目標に整備を進め1989年（H元）に目標達成。現北区内では、1984（S59）に大淀区内に設置されるも、北区（当時）には設置されず。現在に至る。*

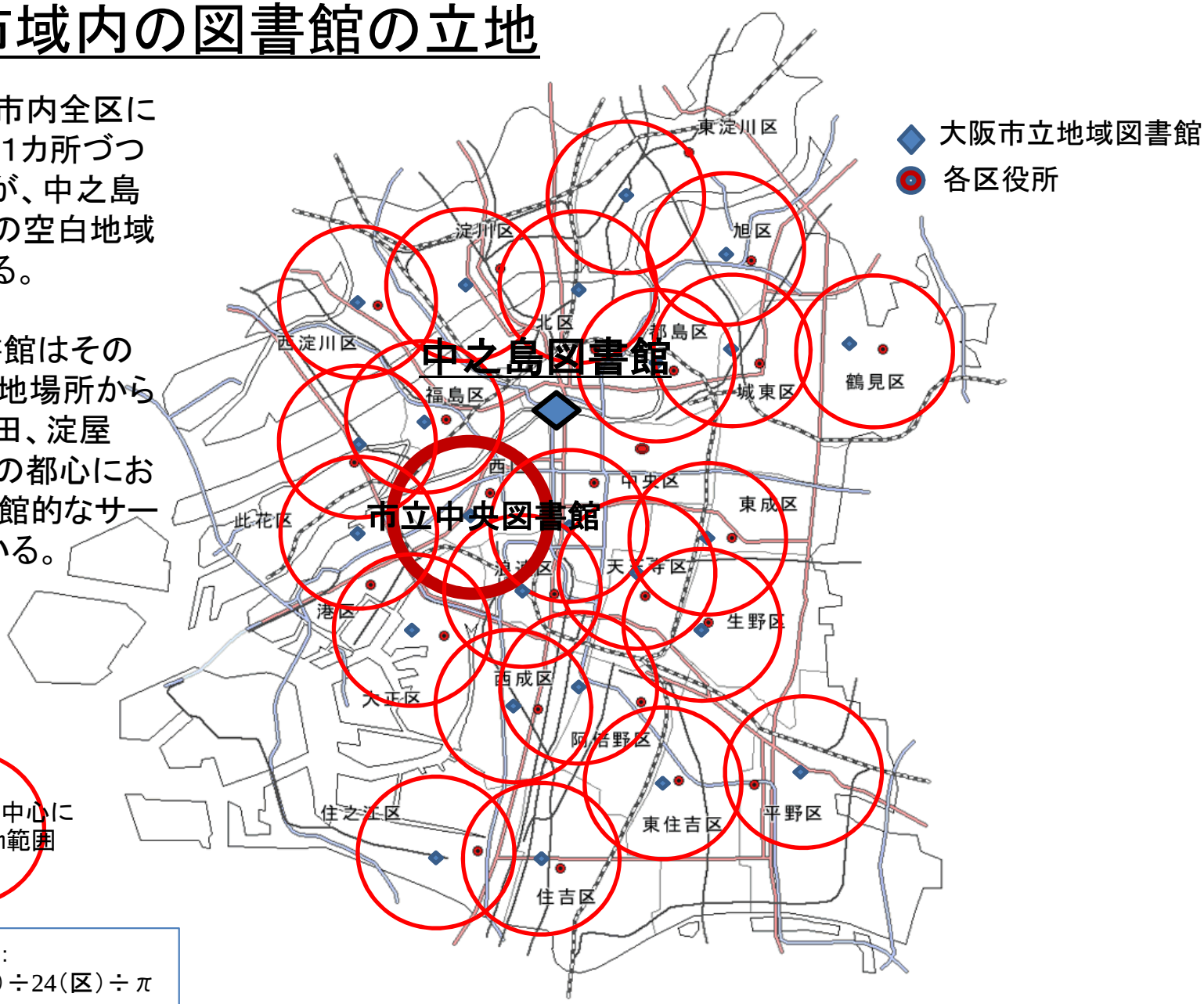
Ⅱ　1996年（H8）府立中央図書館（東大阪）を新設（延べ床面積約3万7百㎡）。
　府立中之島図書館は蔵書の多くを移し、一般書籍（地域図書館的）と大阪資料古典籍を中心とするサービスに特化。府立夕陽丘図書館は廃止。

*6　1996年（H8）、府立夕陽丘図書館が市外に転出し、府立中央図書館として建設されるのに対応して、市立中央図書館を現地（西区北堀江）で建て替え（延べ床面積約3万4千5百㎡）。*

# （2）大阪市域内の図書館の立地

○　大阪市は、市内全区に地域図書館を1カ所づつ配置しているが、中之島図書館は、その空白地域に立地している。

○　中之島図書館はその設置経緯と立地場所から必然的に、梅田、淀屋橋、本町界隈の都心における地域図書館的なサービスも担っている。




「半径1.7kmの円」:
223km²（市域面積）÷24（区）÷π
の√解

# （3）市域内図書館サービスの状況

○　大阪市では各区の地域図書館を順次整備しているが、図書館数・床面積・蔵書数とも、未だ東京都区部図書館と比べ、劣った状況にある。
○　そのため、全国屈指の規模を有する市立中央図書館が、地域図書館との間で密接な情報・物流のネットワークを構築することによって、地域図書館を支え、住民サービスを実施している。

●東京都区部と大阪市の図書館環境の比較（住民百万人当たり）

図書館数、蔵書冊数、図書資料費とも市が都区部の２分の１以下の状況

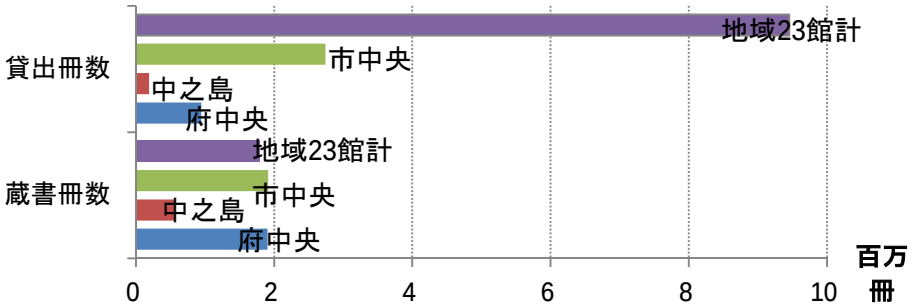
| | 人口百万人当たり | | | | 対比（東京都＝100） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 館数 | 延床面積（㎡） | 蔵書冊数（千冊） | 資料費（百万円） | 館数 | 延床面積 | 蔵書冊数 | 資料費 |
| 東京都立 | ― | 2,176 | 154 | 25 | ― | 100 | 100 | 100 |
| 特別区計 | 26 | 36,817 | 3,114 | 347 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 市町村計 | 39 | 38,863 | 4,474 | 335 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 都計（除く都立） | 30 | 37,480 | 3,555 | 343 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 大阪府立 | ― | 4,339 | 284 | 15 | ― | 199 | 184 | 58 |
| 大阪市 | 9 | 22,585 | 1,506 | 40 | 36 | 61 | 48 | 12 |
| 市町村計 | 19 | 26,565 | 2,860 | 190 | 48 | 68 | 64 | 57 |
| 府計（除く府立） | 16 | 25,401 | 2,464 | 146 | 53 | 68 | 69 | 42 |

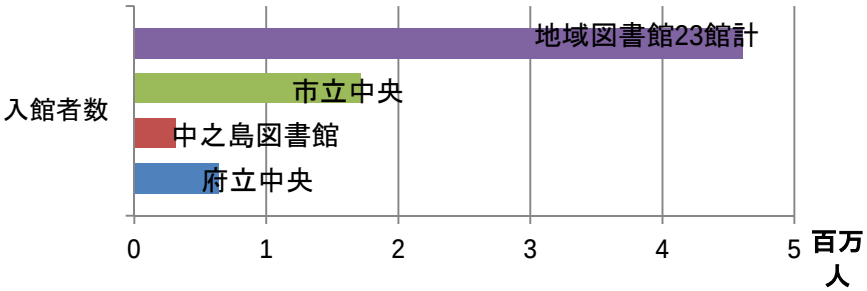
# （4）府立図書館と市立図書館の役割と機能の相違

| | 大阪府立図書館 | 大阪市立図書館 |
|---|---|---|
| 役割 | • 府域図書館（市町村・学校・大学等）のネットワークの中核。国立国会図書館や他府県図書館等との連携・協力の推進役。<br>• 府域の図書館振興<br>• 高度・多様化する府民ニーズを把握し、資料や情報を収集・整理・保存し、広域的に提供。 | • 市民のために資料や情報の提供等、直接的な援助を行う。<br>• 市民ニーズを把握し、地域の実情に即した図書館サービスを提供。<br>• 中央図書館は、市内の地域館（23館）を結ぶ中枢の役割。 |
| 機能 | • 府域の市町村図書館等153館（未設置自治体含む）の支援。<br>• 府域図書館間のネットワーク構築および連絡調整。<br>• 市町村では購入が難しい専門的、高額な資料を重点的に収集。<br>• 府域の「図書館の図書館」として全分野の資料を保存。<br>• 府民の多様な調査研究・学習を支援する高度・専門的サービスの提供。<br>• 府の行政施策と連動したサービスの提供。<br>• 効果的・効率的な図書館サービスに関する調査・研究機能 | • 大阪市民への直接サービスの提供（個人貸出、調査相談、障がい者サービス、子どもの読書活動支援）<br>**中央図書館は、上記に加え、**<br>• 情報ネットワークシステム・物流システムの一元管理・一体的運営の中枢機能。<br>• 市内23地域館の書庫機能。<br>• 自動車文庫車巡回サービス、幼児施設や高齢者施設への配本サービス等の提供<br>• 大阪市立全24図書館の総務機能。 |
| サービス対象 | •大阪府域（大阪府民886万人）<br>• 大阪府内の市町村立図書館 | •大阪市域（大阪市民268万人） |

【参考】
府市図書館の比較
（H23年度）

| | 蔵書冊数 | 貸出冊数 | 入館者数 | 他館への貸出（物流） | 図書購入単価 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大阪府立中央図書館 | 1,903,720 | 946,103 | 639,276 | 70,341（対象：市町村等） | 3,771円 |
| 中之島図書館 | 558,062 | 192,318 | 312,118 | 4,164（対象：市町村等） | |
| 大阪市立中央図書館 | 1,912,922 | 2,743,176 | 1,714,266 | 1,871,336（対象：市立図書館） | 1,403円 |
| 地域図書館23館合計 | 1,790,415 | 9,453,885 | 4,609,536 | 1,814,298（対象：市立図書館） | |



# ３　中之島図書館に対する評価

# （1）府民の利用状況と一般的評価　（府政モニターアンケート調査　H21.09）

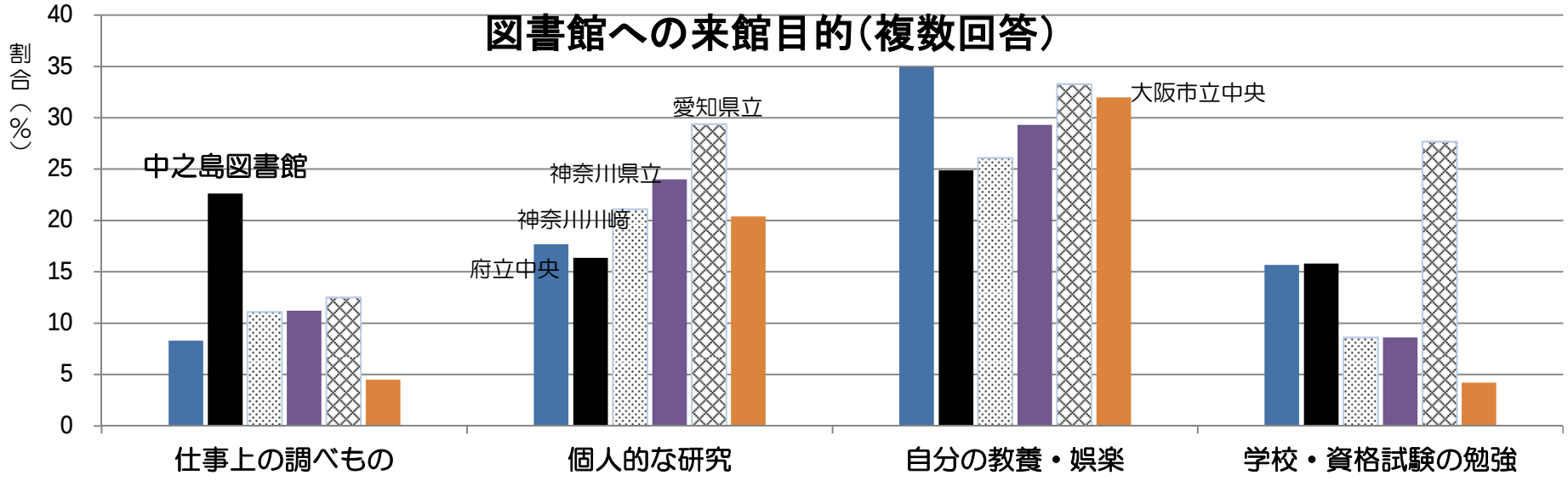
○　回答者1,600人中、利用している者は約3割。利用しない者の理由の多くは**「地元の図書館で間に合う」**。
○　中之島図書館の認知度は93%と、抜群のネームバリューを有する。
○　建物に対しては**「大阪のシンボル」**、**「後世に残すべき貴重な財産」**など好評価がある一方、**「入館方法など使い勝手が悪い」**、**「敷居が高い・入りにくい」**、**「老朽・狭い」**、**「空調やにおいが不快」**など、マイナスの評価がある。

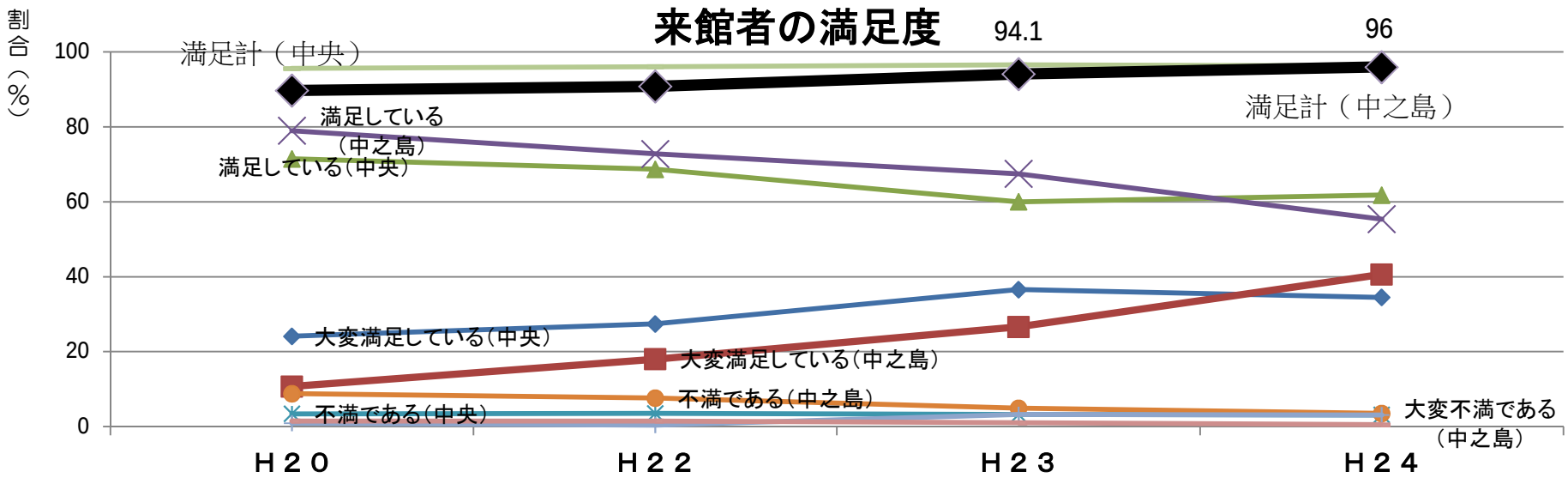
図書館「利用状況・認知度調査」
回答者1，661人／2，135人

| | | | | 府立中央図書館 | 中之島図書館 | 回答者数 | うち自由記述数 | 図書館事業 積極的評価 | 図書館事業 消極的評価 | 建物 積極的評価 | 建物 消極的評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用者 | よく利用する | | | 3.1% | 2.3% | 38名 | 33名 | ・近くて便利（3）<br>・雰囲気がよい（4） | | ・魅力的（4）<br>・大阪のシンボル（2） | |
| 利用者 | 必要があるときは利用する | | | 14.3% | 26.9% | 447名 | 287名 | ・交通の便がよい（18）<br>・落ち着く雰囲気が良い（8）<br>・蔵書が多い（9）<br>・資料の価値が高い(3) | ・蔵書が少ない（9）<br>・専門的すぎる（3）<br>・地域の図書館で足りる（12）<br>・催し物が少ない（9）<br>・PRが不十分（9）<br>・日曜日に閉館している（6） | ・歴史を感じる（26）<br>・後世に残すべき貴重な財産（22）<br>・大阪の シンボル（6） | ・老朽（8）<br>・狭い（5）<br>・空調やにおいなど不快（3） |
| 非利用者 | これまでに利用したことはあるが、また利用したいとは思わない | 他の図書館を利用 | 自宅から遠くない | 4.8% | 2.3% | 38名 | 20名 | | ・資料が古い（3）<br>・入館方法など使い勝手が悪い（2）<br>・職員の態度が悪い（2） | | |
| 非利用者 | これまでに利用したことはあるが、また利用したいとは思わない | 他の図書館を利用 | 自宅から遠い | | 4.0% | 67名 | 33名 | | ・地元の図書館で間に合う（10）<br>・出かける必要性を感じない（4）<br>・入館方法など利用勝手が悪い（4）<br>・本が古い・汚い(4) | | |
| 非利用者 | これまでに利用したことはあるが、また利用したいとは思わない | 他の図書館の利用もない | | | 4.5% | 74名 | 41名 | | ・資料が探しにくい(4)<br>・利用者の問題(ホームレス)(2) | | |
| 非利用者 | あるのは知っているが これまでに利用したことはない | 他の図書館を利用 | 自宅から遠くない | 45.1% | 9.2% | 152名 | 64名 | | ・地元の図書館で間に合う（23）<br>・どんな資料があるか知らない(16)<br>・使い勝手が悪い(4)<br>・敷居が高い(3) | ・魅力的、歴史的、立派、素敵など | |
| 非利用者 | あるのは知っているが これまでに利用したことはない | 他の図書館を利用 | 自宅から遠い | | 17.9% | 297名 | 127名 | | ・地元の図書館で間に合う（37）<br>・独自のサービスの提供（16）<br>・イベントの開催（6）<br>・地域図書館との連携強化（7） | | |
| 非利用者 | あるのは知っているが これまでに利用したことはない | 他の図書館の利用もない | | | 26.4% | 439名 | 210名 | | ・敷居が高い・入りにくい(23)<br>・蔵書が利用目的と合わない（14）<br>・地域の図書館で間に合う（16）<br>・家族で利用できない(13) | | |
| 非利用者 | 知らなかったので利用したことがない | | | 32.6% | 6.6% | 109名 | なし | | | | |

# （2）来館者の利用目的と満足度

○ 他の府県立図書館、大阪市立中央図書館と比べ、仕事のために来館する人の割合が高い。
○ 図書館利用者の満足度は高く90%を超えている（H24：「満足計（満足+大変満足）」＝96%）



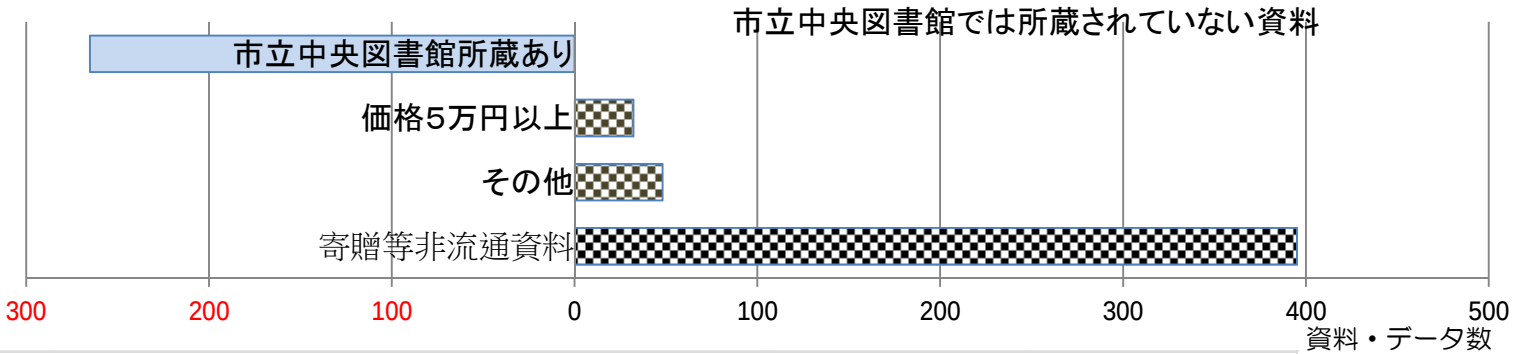
# （3） ビジネス支援サービスに対する評価

## ① ビジネス調査資料へのアクセス数は全国有数

○ 中之島図書館というブランド力を生かした高い資料収集力
○ 最新データへの更新で利用が衰えない調査資料

「寄贈による資料収集」と「事業費集中投下による専門書購入」で資料を構成。
これをWEB上で紹介した「調査ガイド」へのアクセス数は、全国有数。

例）調査ガイド「業界・市場動向のしらべかた」で紹介する資料中




中之島図書館【ビジネス支援関連調査ガイド・アクセス数】

| 調査ガイド名（17種中） | | 月平均アクセス数（上位5位） | |
|---|---|---|---|
| | | H21年度 | H24年度 |
| 1 | 企業情報をしらべるには | 1，438件 | 1，971件 |
| 6 | 新聞記事を検索する（日刊紙編） | 1，928件 | 3，229件 |
| 7 | 判例を調べる | 4，957件 | 6，221件 |
| 10 | 業界・市場動向のしらべかた | 2，169件 | 5，232件 |
| 11 | 地価を知る資料 | 3，846件 | 1，236件 |
| | | 計 12，442件 | 17，889件 |

（参考）
**東京都立中央図書館の**
**最高アクセス件数ガイド**
「ビジネス情報サービス・企業・業界リスト」の
**月間アクセス数は約3千件**
（H20 国会図書館職員調べ）

# （3）②ビジネス支援サービスを体験したモニターの意見

○　デジタル機器の設置やデータベースの利用などに対して、「**図書館に対するイメージが変わった**」との声や「**これまでに無い多様な使い方ができる**」など、評価する声があった。

## 《積極的意見・評価》

○　若い人やベンチャー企業などの調査に活用できれば、少ない資金を他の分野に集中投下できビジネスチャンスが広がる。

○　起業家や個人企業主は、ネットの範囲でしか情報を得ていない。図書館の情報の利用ができれば広い視野から誤りのない判断ができる。

○　企業情報や行政情報を調べに来た企業や法人が、行政との繋ぎを希望する場合に、その役割を図書館が持てばいい。

○　図書館の資料と持ち込みPCで図書館をスモールオフィース的に活用できるようになればよい。

## 《消極的意見・評価》

○　一つ一つの企業データはあるが、網羅的に調べられる資料が限られている。

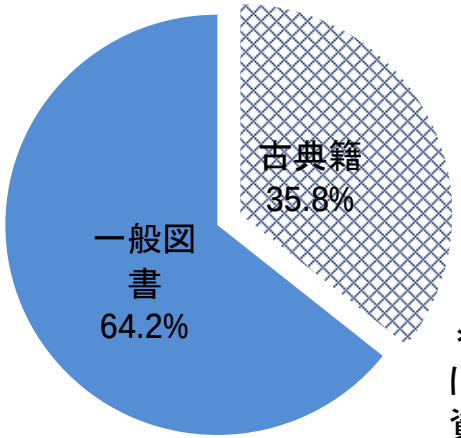
○　海外で作成された資料類や、大企業の人たちが求めるような深い情報がない。

○　ゆったりした雰囲気のある閲覧場所がない。

○　旧来のイメージ（本の貸し出し）を覆す強いメッセージを発信して、図書館のブランド化の中身を変える必要がある。

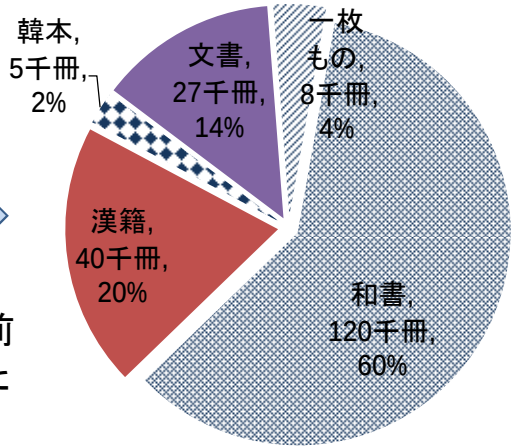
# （4） 蔵書の1/3を占める20万冊の古典籍

**中之島図書館の蔵書構成**




＊古典籍：明治初年代以前に書写あるいは印刷された資料。

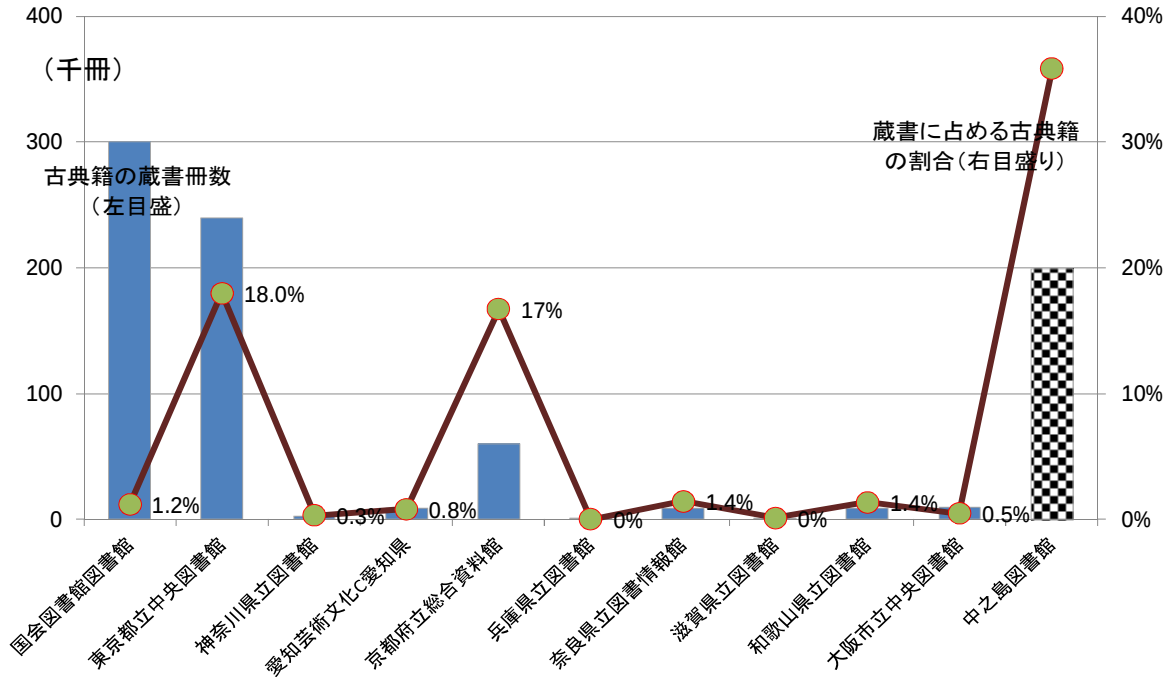
**古典籍の蔵書（20万冊）の内訳**




○ 古典籍の所蔵数は、国会図書館、東京都立中央図書館に次ぐ規模。

○ 全蔵書中に占める古典籍の割合は35.8%と群を抜いている。

○ 10万冊単位で古典籍を所蔵している公共図書館は、中之島と都立中央図書館のみ。



# ≪古典籍の代表的な所蔵品≫

**＜和書＞**

「正平版論語」「日本書紀　神代記」など全国的に見ても希少な貴重書、「芦分船」「河内名所鑑」「難波雀」などの大阪関連の貴重書、井原西鶴、上田秋成など大阪に関わる人物のコレクションが豊富。

**＜漢籍＞**

「昇平宝筏」「永楽大典」など極めて伝本が少なく、海外からも注目されている図書がある。

**＜韓本＞**

公共図書館としては最大のコレクション。韓国では散逸し、国立文化財研究所が来館し調査。

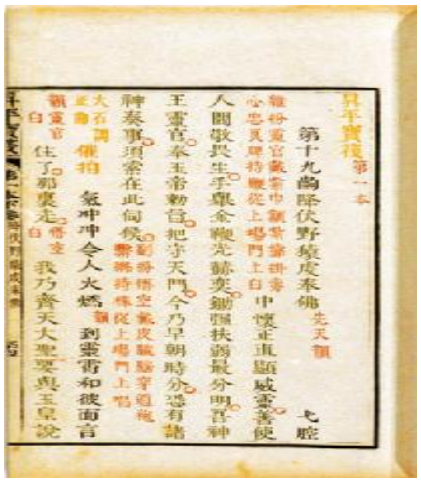
**＜文書＞**

近世の町方、村方文書が纏まって豊富にある。大阪市をはじめ各市の市史編纂室の利用も多い。

**＜一枚もの＞**

大久保利通の自筆「大阪遷都意見書」や「崎陽諏訪明神祭礼図」など当館にしかない資料がある。

昇平宝筏



人魚洞文庫・おもちゃ絵

崎陽諏訪明神祭礼図

# ≪各方面から注目され利活用される古典籍≫

## ―所蔵資料の価値の目安―

【TV・出版等での利活用】

○　古典籍類は、学術・文化的なものを中心に多数の著作物に掲載されている。

○　TV番組等で放送される機会も多く、NHKの歴史番組「歴史秘話ヒストリア」では当館所蔵の古典籍が度々史料として取り上げられている（22年1月から現在まで、同番組で22回、50点使用）。

○　全国の博物館等からも展示等を行う際に多数の資料が貸出されている。

【館内展示等】

○　平成8年度以降、館内で古典籍に関する展示会を26回開催（1回当たり2～3週間）。のべ1,722点の資料を展示し、33千人余の入場者があった。

○　展示内容とタイアップした講演会をのべ21回開催。毎回50～100人の参加者があった
（会場の定員：約100名）。

○　平成25年度から毎月1回の書庫ツアーを実施し、古典籍等を紹介。毎回20名前後の参加者がある。

出版掲載・TV放映された資料（冊数）

| | H22年度 | H23年度 | H24年度 |
|---|---|---|---|
| 出版 | 188 | 260 | 298 |
| 放送 | 42 | 77 | 34 |
| 計 | 230 | 337 | 332 |

他館・他施設に貸出された資料（冊数）

| | H22年度 | H23年度 | H24年度 |
|---|---|---|---|
| 国立施設 | | 2 | 2 |
| 図　書　館 | | | 2 |
| 博物館等 | 27 | 44 | 27 |
| 大　　学 | | 28 | |
| そ　の　他 | | 2 | 2 |
| 計 | 27 | 76 | 33 |

# （5） 近代大阪を代表する文化遺産

○ 国指定の重要文化財である本館及び左右両翼棟は、西洋建築の模倣の域を越えて、日本における洋式建築の黎明を告げる格調の高い建物であり、それ自体が近代大阪の貴重な文化遺産である。

⇦京阪電車
沿線案内図

○ 大阪をテーマした1870年以降に出版された図書を約19千件所蔵している。これは、国立国会図書館の2倍近い件数であり、同じ大阪にある府立中央図書館や大阪市立中央図書館と比べても1.5倍程度の図書を所蔵している。

これらの所蔵資料を活用しこれまで、以下に例示する展示や関連講演会を毎年行っている。

| 展示会 | 主な展示資料 | 関連講演会のテーマ | 講師 |
|---|---|---|---|
| 「大阪の博覧会」展 | 「第五回内国勧業博覧会俯瞰図」ほか112点 | 商都大阪の都市景観－第五回内国勧業博覧会をめぐって－ | 橋爪紳也氏 |
| 近代大阪の文芸展 | 「夫婦善哉（自筆草稿）」ほか179点 | 大阪の文学と書物の美 | 肥田晧三氏 |
| 地図と写真でみる大阪の姿 | 「阪府高麗鉄橋之図」ほか103点 | 1920･30年代大阪のすがた－関一の都市思想－ | 芝村篤樹氏 |
| 大阪の都市文化遺産と住友 | 「草創期寄贈嘆願書綴」ほか | フォーラム大阪の都市遺産と住友 | 藪田實氏 |
| 商都の景観－近代大阪の名建築－ | 「大阪府写真帖」ほか44点 | 都市を彩る中之島･船場の近代建築 | 中嶋節子氏 |
| | | 造形芸術作品としての建築 | 井面信行氏 |

# （6）中之島図書館の立地特性とブランド力

**＜立地特性＞**

○　大阪都心部の交通至便地に立地。大阪府内はもとより、近畿一円からアクセスが容易。

○　半径1㎞圏内の夜間人口は1万5千人程度だが、昼間人口は30万人余と20倍を超える。

※各図書館の半径1㎞圏内の昼夜間人口の比較（昼間人口／夜間人口）、単位：万人
府立中央図書館（3.6／1.7）、市立中央図書館（7.6／5.6）、市立北図書館（3.3／3.6）

○　中之島公園という大きな都市公園の一角を占め、公園で展開される様々なイベントや隣接する中央公会堂、東洋陶磁美術館等と連携した事業展開が可能。

**＜「中之島図書館」というブランド＞**

○　明治37年の開館以来、110年間、同じ場所でそれぞれの時代に合ったサービスを提供してきたことに対する信頼感が人を集め、寄贈等による非流通本の収集を可能としている。

○　「図書館」であることで、人々のアプローチを容易にし、様々な課題解決に取組もうとする多様な人々が始終出入りし、賑わいを創出している。

# （7）結　び

○　中之島図書館に対する消極的評価については、課題として真摯に受け止め、今後改善に努めていく。

○　一方、積極的評価については、ポテンシャルと理解し、その要素を活用して一層の伸長を図っていく。

# ４　有効活用の方策

## ー仮説の検討ー

# (仮説1)他用途への転用－美術館・博物館等

交通至便地という立地条件や重要文化財である建物の魅力を活用するため、図書館を廃止し、美術館・博物館等の他の文化目的の集客施設への転用することについての検討。

【課題１】 玄関、各室が集客施設としては狭小。諸室の配置が回遊式になっていない。大型の絵画等を搬出入する開口部・エレベーターや収蔵庫が無い。

▽ 重要文化財のため施設の外壁・内壁は、ほぼ変更できない（要文化庁協議）。既存の内壁は、構造上、撤去困難。

▽ 床の耐荷重の確保（強度調査と不足の場合の強化）が必要。

▽ 展示品の搬出入用の大型開口部を設けることは困難（文化財の制約）。荷物用大型エレベーターを館内に設置できる場所は無く、外付けも建物の外壁に開口部を設けることが困難な上に、設置場所の確保が難しい。

▽ 搬出入用トラックヤードや収蔵庫のスペース確保が必要。

【課題２】 空調等建物全体の設備機器の一新が必要。

▽ 空調設備の更新（展示室・収蔵庫は、温度20℃、湿度50%を基準）。※現状は、クーラーとスチーム暖房。

▽ 自然光が入らない空間設定。紫外線を除去した照明設備。※現状は、自然採光を前提にし、蛍光灯を使用。

▽ 不活性ガスによる消火設備の設置。※現状は、未設置。

▽ 防火区域や排煙、非常用照明、誘導灯、自動火災報知機などの消防設備の整備。
※現状は、自火報、誘導灯、非常照明のみ。

【課題３】 集客施設として整備が求められる設備等

▽ バリアフリー化のため館内にエレベーターの設置求められるが、文化財上の制約がある。

▽ ミュージアムショップ・案内ブース設置のためのスペースの確保。

【考　察】

美術館、博物館等への集客施設への転用は、重要文化財ゆえの物理的な困難を伴うとともに、改修に莫大な経費と時間（文化庁との協議等）を要するなど現実的にかなり難しいと考えらえる。

# (仮説2)図書館としての活用を探る

## ①　大阪資料・古典籍に特化した図書館ミュージアム

一般の書籍はなく、建物と親和性があり、現中之島図書館の特徴である大阪資料と古典籍を中心に蔵書を構成。その中の貴重書や稀覯本などを展示するミュージアム的な機能を中核に構成。

【特化することによるメリット】

・館事業を特化事業に集中して実施できるとともに、館内の室利用を単純にできる。

・これまで蓄積してきた貴重な資料やノウハウの発展活用が図れる。

・資料の展示によりその存在をアピールするとともに、有効活用を促す。

【特化することによるデメリット】

・入館者が大きく減少するおそれ（大阪資料・古典籍の利用者は、現利用者全体の約２．５割）。

*※古典籍に特化した図書館ミュージアムである「東洋文庫ミュージアム」（東京都文京区）の年間入館者は、3万人弱。*

・特化対象以外の資料（約３０万冊）を移管する必要がある。

【考察】

ミュージアム機能の展開で情報発信と蔵書の有効活用が進み、新たな利用層の来館も見込めるが、現在の大阪資料・古典籍の利用状況からして、現利用者の75％（大阪資料・古典籍以外の資料の利用者）に達するとは考えられず、都心の一等地にある図書館で、今以上に入館者が減少する危惧がある。

また、閲覧室の運営方法如何では、本来の目的以外（居眠りなど）の入館者増える懸念がある（平成10年代前半）。

以上から、入館者が減少し、賑わいが期待し難い本事業への特化は得策ではないと考えられる。

# （仮説2②） ビジネス支援サービスに特化

一般の書籍はなく、ビジネス関連の資料だけで蔵書を構成。地域の企業に勤めるビジネスパーソンの仕事に役立つサービスや起業や就業などに関わる情報の提供や相談に応じることを主とする。

【特化することによるメリット】

・館事業を特化事業に集中して実施できるとともに、館内の室利用を単純にできる。
・平成１６年度以降、培ってきたノウハウを発展活用できる。
・都心のビジネスニーズに応えられる。

【特化することによるデメリット】

・特化対象以外の資料（約20万冊）を移管する必要がある。特に、貴重書9千冊の保管場所を確保する必要がある。
・重要文化財である建物と提供しているサービスとのミスマッチ。

【考察１】

地域ニーズの高い図書館事業に特化することで、より広く、深い事業内容でサービスを提供することができ、利用者の増加と満足度のアップにつながる。

反面、この事業のみでは建物の魅力とマッチする事業を展開することは難しく、また、100年以上にわたり集積してきた貴重書をはじめとする古典籍などの資料が散逸するおそれがある。

書庫と閲覧スペースに未だ余裕があるなかで、本事業にのみに特化するのは得策ではないと考える。

【考察２】

ビジネス支援に関する地域のニーズがあるとした上で、**ビジネス支援サービス事業を「中之島図書館」でする必要があるのか**について

ビジネス支援サービスを行う候補地としては、よりビジネスの現場に近い「うめきた」や「駅前第4ビル」などが考えられるが、中之島図書館で行っているような形態(図書資料と電子情報のハイブリッド型資料提供）を、そのまま移すことは難しいと考える(30万冊の資料保管）とともに、図書館の分散設置によるコストの増嵩も懸念される。

⇒仮に、第4ビルでやる場合は、書籍情報以外を中心とした未来志向の図書館が相応しい。

# （仮説2③）一般的な地域図書館にすること

児童書も含めて、一般の読み物系の書籍で蔵書を構成。資料を用いての調査研究を目的とする閲覧ではなく、市民の読書を支援することを主とする。したがって、貸出中心の図書館となる。

【一般図書館化することによるメリット】

・周辺住民は一般図書館が身近にできたことで恩恵を得る。

*※現中之島図書館周辺には、大阪市立図書館は存在しない。*

【一般図書館化することによるデメリット】

・現在保有する全書籍（56万冊）の保管場所を新たに確保する必要がある。

・府立図書館としての本来の役割でない事業に府税を投下することになる。

・府立図書館の資料収集方針と異なるサービスになる（図書の複数配置や適宜処分）。

【考察】

本来基礎自治体立図書館が実施すべき読み物図書館的な機能を府立図書館が担う必要があるのか。当該サービスを府の財源で行う必要があるのか。

仮に、当建物を利用して一般図書館事業を行う場合は、そのサービス内容に見合った事業主体（＝基礎自治体）が管理すべきと考えられる。その場合、財産の処分を伴うことになるが、移譲時の協議によっては、より多くの負担（建物改修など一時、多額の負担）を伴うおそれがある。

また、現在所蔵している資料の多くは、一般的な地域図書館には不必要なものであり、新たな所蔵保管場所の確保が必要となる（府立図書館が所蔵する大阪資料・古典籍は、府民共通の文化的財産であり、それを一基礎自治体に移管して良いのかとの論も成り立つ）。

それらの経費を併せ考えると得策ではないと考えられる。

# （仮説2④）図書の貸出し返却サービスの見直し

【サービスをやめることによるメリット】

・経費縮減につながる（人件費・管理機器）・図書の紛失が減少する。

【サービスをやめることによるデメリット】

・府民サービスの低下、資料の活用低下（入館者数の低下）。

【考察】

- 都道府県立図書館は資料の保存と市町村図書館への支援を大きな使命としている。この機能・役割をつきつめていけば、個人への直接的な資料の貸出は見直すべき。しかし、府内の図書館環境が脆弱な現時点で見直すことは、府民サービスの低下を招くばかりで時期尚早と考える（未だ府内には6町村に図書館がない。本資料17ページで見たとおり、大阪府の図書館環境は東京都に比べ相当劣る）。
- 将来的に、府内の全公共図書館で府立図書館の図書を個人貸出返却できるような体制が整備されれば、Web環境の充実（Web予約の一層の普及）と合わせて、府立図書館での貸出廃止の環境が整う。
- また、中之島図書館だけが窓口業務を停止しても、府立中央を通じて中之島保有資料が貸出されるなら、サービスの地域的な不均衡が生じ適切ではない。
- さらに、より便利な場所（例えば、淀屋橋周辺であれば、ODONAや市役所1F）に予約図書の貸出返却窓口を設けることも考えられるが、その場合も現図書館の窓口を閉鎖することは難しいため（蔵書は貸出が可能なのだから図書館でも貸出窓口は設けざるを得ない）、サービスの分散化による経費の増嵩が予測される。

# ５　検討の方向性

≪前章までの評価、検討結果から≫

○　図書館を他の用途に転用する場合には膨大な経費と時間を要し現実的でない。

○　図書館事業を継続する場合も、サービスを特化して提供するケースでは、いずれのケースでも図書館として十分なパフォーマンスを発揮できず、かつ経費的な効果も生み出しがたい。

≪今後の検討方向≫

○　そのため、本検討会では現建物、現有の図書館資料及び一定の評価を得ているサービスに係るノウハウを最大限活かし、あわせて中央公会堂など周辺施設の協力を得ながら、「中之島」にふさわしい「文化的」なニーズに即した事業を組み入れ、耐震補強工事竣工後（平成２６年１２月末予定）のリニューアルオープン時を目途に、次のコンセプトのもと、再スタートすることが適当と考える。

# 【基本的方向性】

## 大阪中之島「文化」図書館
## ープライドオブおおさか・先人の偉業に親しむー

ただし、「文化」だけでは集客が見込めない

### 街の中の文化ステーション（何でもありの（専科でなく総合的）ワンダーランド。そこに行けば毎日、何かおもしろいことがある）

・先人が残した圧倒的な情報の蓄積に直接、触れる（魅せる図書館）
・現代大阪の礎の確認（アイデンティティ確認の場・子どもの受入れ）
・所蔵資料を用いた文化の継承発展活動（公会堂と連携してのカルチャースクール）

### 地域直結図書館サービスの継続・拡充実施

・集いの場「独立志向系パーソン」に対するインキュベーション的機能
・書斎的スペースの提供（コピー、印刷機の設置・専有スペース；有料化検討）
・府中央と市立中央図書館のサテライト機能（取り寄せ返却サービス）も実施
・現ユーザーへのサービスの継続　　・古典籍資料の共同研究

### 快適性の確保・外観の美化（建物そのものが文化・外壁洗浄）

・入館システムの改善（正面玄関からのフリー入館・BDS対応）
・アメニティの向上（特に便所）、喫茶の提供（休憩室・談話室を兼用）

# 【基本コンセプト1】

## 街の中の文化ステーション

何でもありの（専科でなく総合的）ワンダーランド。そこに行けば毎日必ず何か面白いことがある。

### 魅せる図書館

先人が残した圧倒的な情報の蓄積に直接、触れる。

- ○ 古典籍を収納した大書架を閲覧室内に設置。⇒ 書庫の見せる化、古典籍の量を体感。
- ○ 古典籍の実物およびデジタル資料・パネル・古地図のレプリカ等を用いた常設展示で古典への興味を誘う。
  ⇒期間を定め、展示を更新。関連書籍を置き、閲覧・貸出。関連する資料を連携機関から借りて展示。

### アイデンティティ確認の場

子供たちが大阪の歴史に触れ、学び、現在の大阪の礎を確認し、大阪の未来へ夢と希望を膨らませる。
併せて府外からの来訪者に大阪に対する理解を深めるとともに、府内の類縁機関へのゲートウェイ機能を果たす。

- ○ 中之島図書館の建物で近代大阪文化遺産を体感。⇒ 館内ツアーの実施。近隣の近代建築物との連携。
- ○ 近代大阪文化関係資料（写真、絵葉書、地図等及びそのデジタル化資料・レプリカ）を常設展示。
  ⇒期間毎にテーマを定め、展示を更新。関連書籍を置き、閲覧・貸出。連携機関から借りた資料も展示。

### 文化の継承発展

所蔵する資料・書籍を活用した文化の継承・発展に資する活動を展開。

- ○ 中央公会堂と連携した文化学習創造活動の実施。⇒ 文化教室の開催、図書館資料の貸出。
- ○ 図書館別館を活用した展示とタイアップした講座・講演会の開催。
  ⇒ 古文書講座を開催、上級修了者を常設展示の案内ボランティアに登用、翻刻の出版等で情報発信。

### 交流・語らいの広場

若手アーティスト等が集い、語らうことで育まれるサロン的機能を提供。

- ○ 若手アーティスト等が求めて集うような情報を提供。⇒ サロンを作り口コミを活性化、蔵書・DBの充実。
- ○ 展示室を常設し、若手アーティストに発表の場を安価に提供。

# 【基本コンセプト2】

## 地域直結図書館サービスの継続・拡充

現在の中之島図書館が担っている地域直結図書館サービスを当面、継続・拡充する。
※　各機能については、今後の地域図書館の整備や情報化の進展等を踏まえ見直していく。

### 刺激のある集いの場

独立志向系や士(ｻﾑﾗｲ)業のビジネスパーソンに出会いと集いの場を提供し、将来の大阪を担う人材を育む。

○　志を持つ有為な人材が集まる快適環境の整備。
　⇒　必要とする資料・情報・DBの提供、ネット環境の整備。建物としてのアメニティ向上（トイレ等）
○　秘書的機能で支援。⇒　資料調査・レファレンス。

### 書斎的スペースの提供

揺籃期のビジネスパーソンが書斎替わり・スモールオフィス替わりに使えるスペースを提供。

○　コピー・印刷機、喫茶・軽食施設の整備。
○　ネット環境の整備（再掲）。
○　グループ活動が可能な専有スペースの整備。⇒　有料化検討

### 府市連携によるサテライト機能の強化

現在の府立中央図書館のサテライト機能に加え、大阪市立図書館利用の貸出・返却窓口機能を担う。

○　市立図書館蔵書のWEB予約の際の受取場所に中之島図書館を追加。
　⇒　中之島図書館に市立図書館のシステムの端末を設置。

### 古典籍資料の共同研究

○　大学等の研究者と連携して、古典籍資料の共同研究を実施。⇒　古典籍利用の弾力化等。研究成果の発信。

### 現ユーザーへのサービス継続

○　調査・コンサルタント業など、現在の中之島図書館のサービスを使っているビジネスパーソンには、直ちに近隣で同種のサービスを提供できる代替施設がないので、当面、現サービスを継続する。

# 【基本コンセプト3】

## 快適性の確保・外観の美化

国指定の重要文化財である建物の美化・保全を図りつつ、利用者の利便性向上を図る。

### 快適性の確保

重要文化財の保全に配慮しつつ、利用者の快適性の向上を図る。

○ 入館システムを改善し、来館者の心理的抵抗を無くし、入館者数増につなげる。
⇒ BDSを整備し、ニーズの強い正面玄関からのフリー入館を実施。初期投資を要するが、長期的には受付業務の廃止による経費節減でペイ。蔵書管理の適正化にも資する。

○ 館内のアメニティの向上。⇒ 特にトイレ。

○ 喫茶・軽食の提供。⇒ 長時間滞在には不可欠な要素。休憩室・談話室を兼用。文化庁と要協議。

○ 照明設備の改修。⇒ 紫外線対策及びLED化による節電。

### 建物の保全

機能を十分発揮させるとともに文化財を保全するため、本館以外の建物についても保全を図り、有効活用を行う。

○ 2号書庫・3号書庫・事務棟等の耐震化の推進。
⇒ 26年度基本設計、27年度実施設計、28年度以降耐震補強工事

○ 本館低利用部分（1F）及び別館の活用による施設の拡充。⇒ 本館・2号書庫と別館との連絡通路の復元等

### 景観の向上と更なる利便性の確保

○ “白亜の殿堂”の復元。⇒ 重要文化財部分の建物外壁の高圧洗浄による美化。

○ 中央公会堂との一体性の確保【将来課題】
⇒ 図書館と公会堂の間の道路を閉鎖し、大型バス専用の駐車場化。地下通路の設置（露天掘式）。

# ６　具体的な改革案

# 段階的事業実施（整備）計画

## １　平成27年度以降、すぐにできること

中央公会堂と連携した各種展示やイベントの実施（26年度から順次取り組む）

## ２　平成27年度からできること（資本投資を伴うもの）

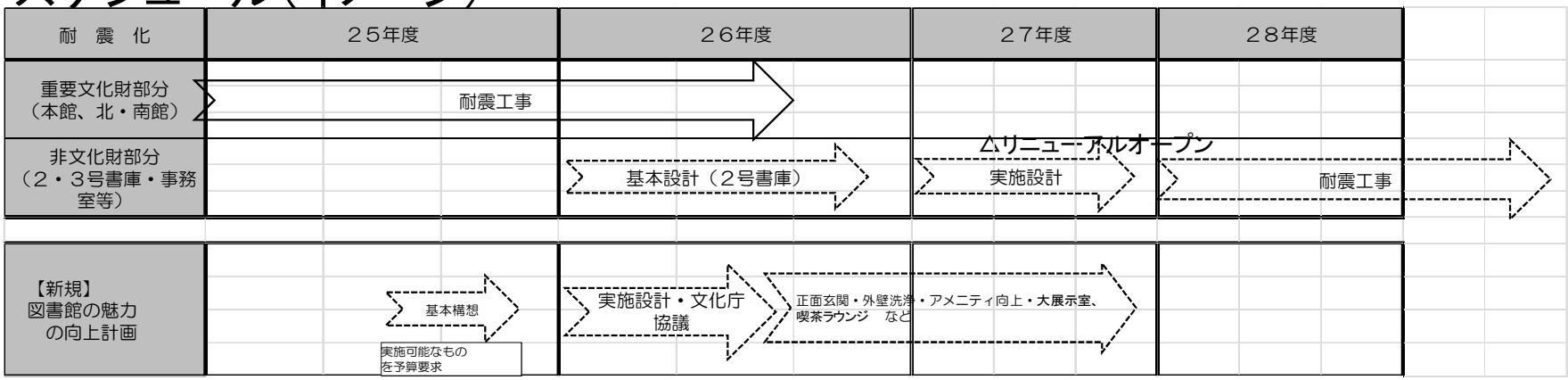
〇正面玄関からのフリー入館、外壁洗浄、記念室の装飾復元やトイレの改修工事。
大阪市立図書館の資料の取次ぎサービス

〇大書架の設置工事、喫茶ラウンジの設置などの改修工事

## ３　将来に向けての事業実施

〇建物の設立当時の復元（内外装）、エレベーターの設置、空調システムの新調。
府立図書館資料の府内公共図書館での貸出し返却サービス。
古典籍目録の電子化。古典籍資料の電子化

## スケジュール（イメージ）




所要経費概算

・外観洗浄　4千万円・フリー入館システム　9千万円・便所の改修など、アメニティの向上　8千万円
・本館内部の改修　15千万円

# 外部有識者の主な意見（1）

意見①

○　建物を活かすことが大前提。そのための最低限の内装・設備の改修は不可欠。正面玄関入場は必須。

○　蔵書だけで人を呼ぶのは困難。蔵書のテーマに合わせた展示、セミナー、ワークショップなど毎日何かしていることが必要。隣接する図書館別館（サテライト）も活用すればよい。

○　展示品はレプリカやデジタル展示でもよい。関係性のある図書を一緒に展示するなどの工夫を。

○　レストラン、カフェは、わいわい人が集まることにも繋がる。映写室のようなところで、ドキュメントなどいつも何かをやっているというような機能が必要。

○　中之島の一等地で夜間を空けておくのはもったいない。夜間は図書館とは全く違う使い方をしても良い。

○　ビジネス支援を全面展開することは困難。文化芸術に関わるスモールサービスや、サムライ（士）業に　特化し、情報提供、調査、コンサルなど、踏み込んだサービスを。そのために、関係部局、NPO、それらの業界との連携、支援を得るべき。

○　アート、文芸系団体から記録などの寄贈を受け、保存。その一方で、調査、研究や海外作品の舞台化などのときに、著作権処理などの支援を。

○　常にいろんなレベルで、古典籍を活かした府民の文芸リテラシー向上に努めるべき。

○　本の貸出サービスは、府立図書館の役割ではないので、やめることも考えるべき。

意見②

○　中之島図書館の古典籍は、資料価値が高いが、所蔵方針があいまい。日・漢・韓のものが混在。メリハリをつけるべき。

○　漢籍やビジネスは、府立中央図書館に移管し、逆に大阪に関係する資料は中央から中之島に移管し、大阪の資料は、過去から現在、未来のものまで、全て揃えるなどコンセプトを明確にしたほうが良い。

○　将来、アート・芸術系で行くのなら、その拠点となるべき。

○　貴重書等で既にデジタル、コピーになっているものは、実物ではなく、それらの積極的活用を図るべき。

○　図書館だからこそできるような企画を司書がやるべき。例えば、太閤記を、古典から現代の絵本まで、展示するなどは、美術館（学芸員）ではできない。

○　高齢化社会の現在、ソファにゆったり座って読書のできる空間も必要。そうした部屋のみ、開館時間を延長してもよい。

○　カフェやレストランも必要。そうした場所で、映画ポスターに連動した原作を開架すべき。

○　貸出しができない貴重な資料の活用のためにも、低廉なコピーサービスを工夫し、利用者サービスの向上を図るべき。

○　図書館は、情報弱者に対する広報やレファレンスの工夫をすべき。

○　書店が、本屋大賞を創設したように、図書館の専門職である司書がもっとアイデアを出し実践すべきだ。来館したくなるサービスに向けて、司書自らが意識改革をすべきでないか。

○　図書館は、行けばいつも何かをやっていて楽しませてくれるという安心感を打ち出すべき。

# 外部有識者の主な意見（2）

意見③

○　中之島図書館は多くの府民が子どものころからの慣れ親しんだ図書館。知的体験の場。

○　中之島図書館の価値は建物であり、そのものがアート。大阪の文化遺産、歴史遺産。

○　中之島エリアには、中央公会堂、東洋陶磁美術館があり道路を渡れば、日本銀行などがある、府内でも特別なゾーン。そうした環境をもっと活かすべきである。利用者からすれば、府立も市立も関係ないので、府立中之島図書館と市立中央公会堂を一体的なものとして、活用していくべき。

○　中之島の蔵書（古典籍）は全体的に地味なので、図書館ミュージアムにするには、強烈な発信性がない。図書と建物の価値をミックスし、再生したほうがよい。

○　海外、全国の観光客にアピールするには、図書館が子どもが知的体験をする施設であることを発信すべきである。

○　ドンキホーテのように、本来図書館は多様なものがあって、ぶらっと来て楽しめる場所でもあるべき。

意見④

○　中之島図書館は、生きた現代人への図書館サービス案を考えるべき。

○　一般書と一般人が借りにくる図書館は止めたほうが良い。

○　中之島図書館の今のビジネス支援事業は、80年代のサラリーマンが対象。これからは、フリーランスを対象とすべきではないか。

○　IT時代の今、これからの中之島図書館は、インターネットには、載っていない情報をサービスすべき。例えば、ファッション関係資料として、原色大辞典など図書の他に、実際の伝統的な日本の色の見本帳の現物を所蔵するなど、ネット上では調査できない資料を所蔵していくことも必要。

# 他府県等施設の調査概要

| | 国立国会図書館 | 国立公文書館 | 都立中央図書館 | 日比谷図書文化館 | 千代田図書館 | 六本木ライブラリー |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 施　　設 | | | | | | |
| 所　在　地 | 千代田区永田町 | 千代田区北の丸公園 | 港区南麻布 | 千代田区日比谷公園 | 千代田区九段南 | 港区六本木 |
| 設　置　者 | 国（立法府所管） | 国（内閣府所管） | 東京都直営 | 千代田区 | 千代田区 | 森ビル株式会社 |
| 指定管理者 | ― | （特定行政法人） | ― | JV：ヴィアックス・SPSグループ<br>代表者：(株)ヴィアックス<br>構成員：サントリーパブリシティーサービス(株)、(株)シェアード･ビジョン<br>指定管理料(H24年度決算)<br>約4億600万円 | JV：日比谷ルネッサンスグループ<br>代表者：(株)小学館集英社プロダクション<br>構成員：大日本印刷(株)、(株)シェアード･ビジョン、大星ビル管理(株)、(株)図書館流通センター<br>指定管理料(H24年度決算)<br>約4億3,700万円 | ― |
| 資　料　数 | 約3,841万点 | 約54万5千冊 | 1,856,540点 | 169,240点 | 162,280点 | 約12,000冊 |
| 延床面積 | 147,853㎡(本庁舎) | 11,550㎡ | 23,196.21㎡ | 9,665.09㎡ | 約3,700㎡ | |
| 特　　徴 | ■日本国内で刊行される出版物を網羅的に収集する納本制度の下、収集資料を国民の文化的財産として永く保存するとともに、その目録である全国書誌をデータベースその他の形態で作成し、これらの資料にもとづいて、国会、行政及び司法の各部門、国民に対してサービスを行っている。<br>■主なコレクション<br>憲政資料、日本占領関係資料、議会官庁資料、地図コレクション、日本関係欧文図書、科学技術関係資料、アジア資料、古典籍資料 | ■国の行政機関などから移管を受けた歴史資料として重要な公文書等を保存管理し、その保存実務から一般利用まで広く事業を行うことにより、歴史資料として重要な公文書等の適切な保存と利用を図ることを目的とした施設。<br>■所蔵資料<br>〇公文書…御署名原本、太政類点、公文録、公文類聚、公文雑纂、内閣公文等<br>〇古書・古文書…紅葉山文庫本、昌平坂学問所本、和学講談所本、医学館本 | ■都内公立図書館に対するレファレンスの支援や資料の貸出し及び広範な資料の閲覧サービスや調査研究への支援などを主な業務としている。<br>■主な貴重資料<br>〇特別文庫室資料…東京誌料、加賀文庫、諸橋文庫、河田文庫、市村文庫、井上文庫、実藤文庫、渡辺刀水旧蔵諸家書簡文庫　他<br>〇東京資料<br>〇海外資料…洋書(英、独、仏、露、西、伊、他の外国語)、中国、韓国・朝鮮語図書 | ■H20年、千代田区移管について合意。H21年移管、H23年開館(改修費約19億円)。4つの機能(図書館機能、ミュージアム機能、文化活動・交流機能、アカデミー機能)とそれらを効果的に運営し利用者の利便性を図るための部門と施設で構成されている複合文化施設。<br>千代田区役所の9・10階にあり、区民だけでなく昼間人口層のビジネスパーソンにも利用できるよう夜10時まで開館している。<br>■主な貴重資料<br>内田嘉吉文庫、旧一橋図書館所蔵本、和本、地域資料、寄贈本 | ■千代田区らしいブランド形成、千代田区の地域性を活かした図書館運営を5つのコンセプト(千代田ゲートウェイ、ビジネスを発想するセカンドオフィス、区民の書斎、クリエイトする書庫、ファミリーフィールド)を基本的な考え方で図書館運営をしている。<br>■主な貴重資料<br>古書販売目録コレクション、内務省委託本 | ■森タワー49階に開設された365日、朝7時から夜24時まで利用できる会員制施設(満20歳以上の個人。入会金10,500円、月会費9,450円、年一括10,500円)ライブラリー。高速無線LAN・月極ロッカー・複合機・電源が設置されたマイライブラリーゾーン(114席)や高速無線LAN・電源・複合機・シュレッダー・飲料自販機・フレッシュネスカフェ併設のライブラリーカフェ(六本木スクール・六本木フォーラムとの共有208席)がある。<br>平河町にもある。 |